

### 報告 1

#### 青島ジャパNDERにブース出展 新潟をPR

11月15日から17日の3日間、在青島日本国総領事館、青島日本人会、ジェトロ青島が主催する「青島ジャパNDER」に新潟県と共同でブース出展し、新潟をPRしてきました。会場は青島イオン東部店、イベント開催期間中の来場者は3日間で約39,000人、多くの青島市民で賑わっていました。(来場者数：食品レジ通過実数。イベント運営受託会社報告)

青島市は去年の反日デモの際、一部日系企業が損害を受けた都市としてその記憶があたらしいと思いますが、今回、青島ジャパNDERに来場した青島市民のイベントを楽しむ姿や日系食品企業が試食・販売する商品を購入する姿からは、昨年反日デモがあったとは思えませんでした。出展企業の話によると、反日デモ直後大幅に落ちた売り上げが、デモ前の売り上げの8割～9割まで回復しているとのこと。

新潟ブースに立ち寄る市民も熱心に新潟の物産や観光について質問していましたが、残念ながら青島で新潟はまだあまり知られておらず、今後、より一層新潟のPRを強化する必要性を感じました。(笠原)



多くの青島市民で賑わう会場内



新潟の物産、観光パンフレット



青島市民が手に取り熱心に見入っていました

### 報告 2

#### 「双秀公園」を訪ねて ～新潟と北京の縁～

11月上旬の朝から晴れ上がった週末、北京市西城区北太平庄にある「双秀公園」に行きました。2012年暮れにできた地下鉄8号線の「安華橋」駅を降り、北三環路に沿って西に歩いて行くと左手に公園の北門が見えてきます。

北京に日本庭園があることを皆さんはご存知でしたか。それも新潟県の人と縁があることを。「双秀公園」の面積は6.39ヘクタール、北京市が建国35周年を記念して建設した10の公園の一つだそうです。





1984年に開園したこの公園は、清雅俊秀に特色を持つ中国式庭園「蒼芳園」と山秀水清と言われる日本式庭園「翠石園」の二つからなり、このことから「双秀」と命名されました。「翠石園」は市内唯一の日本庭園と

のことです。建設に協力したのは糸魚川市の建設会社社長 故谷村繁雄氏です。

残留孤児の養父母に感謝の気持ちを表したいと日本庭園寄贈を申し出て、庭石や木材を日本から運びました。公園の北東に位置する「翠石園」は1.26ヘクタールの大きさです。木で作られた入口の門、その左脇に翠石園と書かれた大きな石が置かれてありました。池泉回遊式の庭園で、池の中には亀島と鶴島が配置されています。今は池の水が抜かれています、春にはまた水がはられ亀の形もよく現れることでしょう。(写真右)



入園料金は2角(約3円)。園内にはすでに多くの市民がいました。家族で散策する人たち、トランプで遊ぶ人たち、体操やダンスを楽しむ人たち、皆それぞれ週末のひと時を思い思いに過ごしていました。「双秀公園」がこの地域の皆さんの憩いの場となっていることが感じられました。

建設されて来年30周年を迎えます。一方、谷村建設は新潟市内に日本式庭園と中国式庭園からなる「天寿園」を1988年に建設しました。この時は、北京市園林局がその建設に協力、40人を超える造園関係者を三か月間にわたり派遣しました。その後、一度閉園しましたが、1995年に新潟市が取得し、「新潟市天寿園」として開園しました。

故谷村氏の想いが結ぶ北京の日本庭園と新潟の中国庭園。この二つの公園も“双秀”の如く、それぞれの都市で今後も市民に親しまれ安らぎを与える美しい公園であって欲しいと思いました。(近藤)



翠石園内の風景



青空のもと多くの人たちが訪れていました

西園寺 一晃先生の

中国レポート No. 39 2013年11月22日

### リコノミクス (L i k o n o m i c s) 始動

日本ではアベノミクスが論議されているが、リコノミクスはその中国版だ。中国語ではアベノミクスを「安倍経済学」と言う。リコノミクスは「李克強経済学」だ。

李克強は温家宝の後を継いだ中国の首相だが、中国共産主義青年団(共青团)出身のエ

リートで、胡錦濤前党総書記の腹心である。北京大学経済学部出身の秀才で、経済学博士だ。共青团時代、「田中派の7奉行」の1人であった小沢一郎宅に寄宿し、日本の政治、経済を学んだことがある。田中角栄元首相の「日本列島改造論」も当然学び、都市と農村、中央都市と地方都市を高速道路と高速鉄道で結び、格差を緩和させるとともに、内需を掘り起こすやり方に興味を持ったはずだ。因みに李克強の大学時代の研究テーマは「都市化」であった。

首相になった李克強は、難問山積の中国経済を安定成長の軌道に乗せる任務を背負った。この任務を遂行するため、李克強が編み出した経済政策をリコノミクスと呼び、その内容について、経済学者の間で議論が沸騰している。

ではリコノミクスとは何か。一言で言えば「中国経済を高成長から中成長にスピードダウンさせ、転換期に立つ中国経済を軟着陸させるため、無理な形での経済刺激策は採らず、市場原理を重視し、経済構造の調整を実現させる」ことだろう。北京のある経済学者は「リーマンショックの時、政府は経済を下支えするために、金融緩和と大胆な財政出動を行った。この措置は大きな効果があり、中国経済は破滅的な落ち込みを免れた。しかし同時に副作用も現れ、ひどい不動産バブルを誘発し、インフレを引き起こした。大胆な金融緩和と財政出動は、緊急時には必要だが、これは一種のカンフル剤で、多用すると麻薬化する」と言う。またある学者は「リコノミクスの中心は、経済に対する政府の関与をなるべく少なくし、市場の役割を重視することだ。例えば価格の形成で、水、電気、石油、石炭、ガスなどの資源、金利や人民元レートなどの資産市場、土地価格、労働コストなどをなるべく市場に任せることである。さらに環境コストの可視化も図られるだろう」と言う。

多くの経済学者は、リコノミクスを支持している。中国が「中進国の罠」を克服し、産業構造の高度化を促進し、資源節約型で環境にやさしい「集約型経済成長モデル」へ軟着陸するためには、リコノミクスを推し進めるしかないと主張する。同時に多くの学者は、決して平坦な道ではないと言う。彼らは、挑戦は2つの方面から来るだろうと予言する。1つは抵抗勢力の存在、もう1つは国民と企業家が「改革の痛み」を分かち合うことができるかどうかである。

高度成長下、権力と経済の癒着が腐敗を生んだ。腐敗の中で富を得る「既得権益集団」が生まれたが、この部分はリコノミクスにとって、軽視できない強大な「抵抗勢力」である。習近平—李克強ラインは、抵抗勢力である「鉄道部」を解体した。現在は石油利権集団にメスを入れようとしている。これらの抵抗勢力一掃ができるかどうかは、リコノミクスの成否に関わる。

リコノミクスは、産業構造転換の過程で、短期的には企業のコスト上昇につながり、中国製品の輸出競争力低下を招く可能性がある。これに企業や国民が耐えられるかどうかである。

中国では、相対的に製造業が発達し、サービス業が立ち遅れている。理由の1つは、重要なサービス業の多くが国有企業に独占されていて、自由な投資がままならず、サービスの質が悪いにもかかわらず、価格が高いというのが一般的だ。今夏ダボスで行われた経済会議で、李克強首相は強い口調で次のように述べた。「サービス業のうち、金融、石油、電力、鉄道、電気通信、エネルギー開発、公共サービスといった分野への参入規制を緩和し、民間投資の拡大を誘導することで、国有企業と民営企業が共存する経済体制を発展させてゆく」。これらは権力と結びつき、利権体制が蔓延している分野だ。これらの分野に風穴を開け、市場原理が機能するようにするのは並大抵ではない。

最近、中国人民銀行は、銀行の貸出金利下限撤廃と農信社（農村向けの金融機関）の貸出金利上限撤廃を発表した。銀行の貸出金利下限撤廃は、当面金融面で大きな変化が起きるかどうかで、学者の間で議論がある。しかし、中国政府が本気で金融の自由化に走り出



したという点では一致している。

上海自由貿易試験区の設置は、リコノミクスの目玉だ。貿易の自由、通貨の流通・人民元決済の自由、人員出入りの自由、貨物搬出入の自由、貨物保管の自由などが内容で、近く試験区の外国人には内国民待遇が与えられると言われる。ある経済学者が次のように解説する。「かつて鄧小平が深圳経済特区を設置し、外資導入を成功させ、それを全国に普及させたように、この上海試験区を成功させ、徐々に全国に拡大する。ただ鄧小平時代と違うのは、鄧小平が労働集約型の外資を導入したのに比べ、上海試験区は、高度な技術移転を伴うIT・ハイテク、サービスの外資を導入する」。

リコノミクスは改革・開放政策を堅持するだけでなく、さらに深化させ、市場経済化の度合いを高めようとしているのは確実だ。

第3四半期の成長率は7.8%と、第2四半期より0.3ポイント上げた。減速気味にあった中国経済は、緩やかな反転を始めたというのが一般的な見方である。しかし、産業の高度化、経済の構造改革は始まったばかりである。

【筆者プロフィール】

西園寺 一晃（さいおんじ かずてる）氏

1944年生まれ

- 明治の元勳・公爵・首相・枢密院議長である西園寺公望氏を曾祖父に持つ。
- 西園寺公一（きんかず）氏（第一回参議院議員・日中文化交流協会常任理事）の長男。
- 北京大学経済学部卒業
- 朝日新聞社に在籍中は、日中関係の調査研究室長などを歴任。退職後も中国問題の調査、研究にあたる。
- 現在工学院大学客員教授、北京大学客員教授、伝媒大学客員教授、北京城市大学客員教授

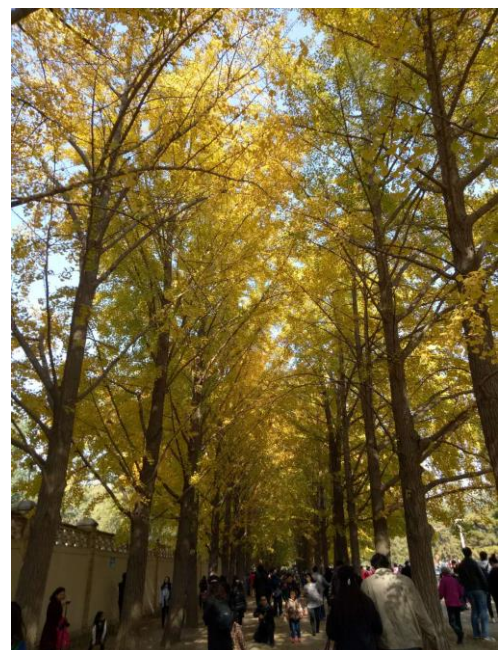
北京スタッフ便り

市内を回って黄金の北京の秋を追いかける

北京に秋がやってくる頃、いつも作家郁達夫の散文「故都の秋」（故都は北京を指す）を思い出します。「北京の秋は特に清くて静かでもの悲しい」と書いています。というのは、北京の秋の空は高く空気が清々しいですが、とても短く秋風が吹くと木の葉がひらひらと散り、寒い真冬に突入するからです。

北京の秋はどんなに短いかというと、半袖を脱いでセーターに着替えてから約一カ月後、急劇に気温が下がればダウンを着ることになります。そのためこのような短い北京の秋を追いかける人が大勢います。

紅葉は秋のシンボルですが、北京の秋は何色かと聞かれたら、黄色だと少しもためらわず答える人が多いと思います。北京市内には紅葉を代表する楓類が少ないですが、公園、各大学のキャンパス、大通りの両側などに銀杏の木がたくさん植えられています。その中で最も有名なのは釣魚台国賓館東塀の外の銀杏並木です。「釣魚台」という名は金の章宗皇帝(在位期間 1189～1208)が同地の池に釣り場を設けたことによるものだそうです。その後、清の乾隆帝が在位期間中、皇族所有の庭園として整備しました。釣魚台国賓館は建国10周年記念の1959年にオープンし、1980年まで国内外の政府要員のみを宿泊させる施設でした。この延々数百メートル続く千本ほどの銀杏の木は1950年代末



釣魚台の銀杏並木

周恩来元総理の指示に従い植えられたそうで、現在北京市内で秋を味わう最も人気の場所になっています。釣魚台の銀杏並木のほか、地壇公園、中山公園、清華大学、北京大学、三里屯大使館区東五街等も銀杏を觀賞するよいところです。銀杏の見ごろは10月末から11月上旬までわずか二週間。

また、秋の北京を黄色く彩る樹木はポプラ、プラタナス、柳の木もありますが、いずれも觀賞期間が短くて、木の高さが千丈であっても秋風に吹き払われると葉は根元に落ちてしまいます。青空のもとで黄色いじゅうたんのような落ち葉の上をさくさくと歩き、見ると目前は見渡す限り一面の黄金色。人も木も葉もこの風景画に欠かせない存在です。これは北京の代表的な秋の景色です。北京の秋には香山の紅葉が一番有名ですが、一番きれいなのは銀杏であるとよく言われます。

しかし、近年、北京の大気汚染がますます深刻になっています。青空が最も多くあるべき北京の秋ですが、先月10月はまさか半月もスモッグに覆われていたとは思いませんでした。経済発展には金山も銀山も必要ですが、人間が生きる環境として青々とした山河がもっと重要ではないかと思われま



ではないかと思われま「秋、この北国の秋、青空のもとで歌を歌う人たち 紫竹院公園もし引き止めることができるのなら、私は寿命の三分の二を失い、三分の一となってもよい」と郁達夫は「故都の秋」の終わりにこのように北京の秋を引止めたい気持ちを表現しました。北京に住んでいる我々も毎日青空のもとで暮らせることを願っています。(鞠)



柳の木、ポプラ、プラタナス 紫竹院公園

### ■■お知らせ■■

「ビジネス支援サービス」をご活用ください。

新潟市の中小企業、団体等が北京市内で経済活動を行うに当たり、様々な支援を行っています。お気軽にお問い合わせください。

詳しくはこちらから

[http://city.niigata.org.cn/business\\_support\\_service.htm](http://city.niigata.org.cn/business_support_service.htm)